

令和元年度 自己評価結果報告書

1. 本園の教育目標・方針

【教育の目標】

- ・豊かな自然体験で「素直に感じる心」を育みます。
- ・遊びや生活の中で、「感性や表現力、思考力やコミュニケーションの力」などを育みます。
- ・異年齢の関わりを通して、年下の子供たちへの「思いやり」や年上の子供たちへの「憧れ
大きくなることへの期待」などを育みます。
- ・生活の中で使う言葉や絵本などを通して、「見る・聞く・話す力」をしっかりと育みます。

【教育の方針】

遊び保育から学ぶ「遊び保育」を柱とし、「主体的・対話的で深い学び」を育み小学生へと繋げていきます。子どもが「おもしろそう」「やってみたい」と感じ、意欲的、主体的に関われるような豊かな環境を、意図的、計画的に構成していきます。

また一人ひとりの子どもに対する理解と配慮を大切にしていきます。

2. 本年度、重点的に取り組む目標や計画

課 題	具体的な取り組み方法
①保育の課題	昨年度新改訂された幼稚園教育要領に基づき、育てたい子どもの理想像を先生たちと話し合い共有し、その姿をイメージしながら教育課程を編成していく。年間→月案→週案→に日案に落とし込み、実践～振り返りを繰り返しながら、より質の高い教育が出来るようにする。 ・学年会議で取り組む ・幼稚園教育要領の読み合わせをする ・個人記録→振り返り（環境の再構築）
②研修や研究	個々の教師が自分の課題を把握し、その課題が達成できるような指導体制をとる 例）課題シードを作成し、個々の教師の課題を年度初めに掲げ、課題を達成するための目標を立て、学期末ごとに達成に向かっているか実践～振り返りをを繰り返しながら課題を達成していけるよう指導していく。

<p>③異年齢交流の取り組み</p>	<p>異年齢の子どもとの関わりを通して、年下の子どもたちへの思いやりや年上の子供たちへの憧れなどを育む。</p> <p>昨年度の反省や課題を次年度の活動の中で活かし、異年齢の活動ならではの育ちあう姿を沢山みられるように活動内容の工夫や研究をしていく。</p> <p>昨年度の反省や課題を今年度の活動の中で活かし、異年齢の活動ならではの育ちあう姿を沢山みられるように活動内容の工夫や研究をしていく。</p> <p>6つの縦割りのグループ（教師2人）で構成し活動。</p> <p>室内あそび、遊戯室で集団あそび、園外保育、課外活動</p> <p>○ 4月5月 登園時 年長→年少のお世話に行く</p> <p>○ 月曜日は「にこにこデー」グループで活動、昼食（おにぎり）</p> <p>「にこにこ会議」を行い振り返り、次回の活動の計画</p>
--------------------	--

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
<p>保育の課題</p>	<p>学年会議で幼稚園教育要領の読み合わせを行った。週案を立てる際に前週の幼児の姿を振り返り、評価、考察を報告しあった。</p> <p>個々の教師の課題を年度当初に掲げ課題を達成できるように目標を立て、学期ごとに達成、実践されているか振り返った</p>
<p>研修や研究</p>	<p>課題シートに個々の教師の今年度の自己課題、自己解決に向けて掲げた。</p> <p>学期末事に振り返りを行った。</p>
<p>異年齢交流の取り組み</p>	<p>1年を通して、月曜日は「にこにこデー」として縦割り6つのグループに分かれ活動が出来た。アート教室や園外保育もにこにこデーとして行った。月曜日は「にこにこ会議」として各グループの活動の報告をしあい子どもたちの様子も伝え共有した。</p>

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

保育の課題

改訂された教育要領を学年会議で読み合わせすることが出来た。2週間の振り返りを行い今後の課題や研究内容、子どもの様子も報告し、学年での教師同士共有することが出来た。取り組むべき課題についてお互い共通理解を図り具体的な目標設定を深く話し合うことが大切と感じた。

子どもたちの理解を深めるために毎日の日誌の場で情報の共有化を行ったが全職員への情報の共有化をもっと密にする必要がある。

研修や研究

個々の教師の課題を年度当初に掲げ達成できるように学期ごとに見直し良く出来たこと、これからの課題と思ったことを自己評価シートに記入し見直しを行った。専門的な講師を迎えての園内研修（わらべ歌、体育指導、保育環境、アートの取り組み、実践）各教師が参加した園外研修会は、報告書を提出し、教師間で共有した。直ぐに取り入れられる内容は、実践し保育の向上につなげることができた。

異年齢交流

6グループの縦割りのグループの中で年下の子供への思いやりや年上の子どもたちへの憧れ、大きくなることへの期待などを育ててほしいという願いのもと月曜日のにこにこデーを通じて異年齢交流を行った。月曜日の午後の「にこにこ会議」で活動の報告、子どもたちの様子を伝え合うなかで、次の活動がより良いものになるように計画した。一年を通して年下の子への思いやる気持ちやお世話をする姿が沢山見られたが、同じ学年の子と関わることも多く見られる傾向があった。園外保育や交通安全教室、芸術の森でのアート教室をにこにこデーで行った。今後も、異年齢が深く関われるような内容、環境を教師間の話し合いの中で考えていきたい。

教育内容

毎日子どもたちが見通して安心した毎日が過ごせるように、戸外あそびから、みんなでする活動（知育、体育、リトミックを含む）昼食、室内あそび、帰りの会。戸外あそびでは豊かな自然の中で四季の変化を五感をつかい、身体いっぱい感じる姿が沢山見られた。教師の提案や関わりのなかで昆虫の飼育、繁殖を見せることが出来たり、戸外あそびの中で絵の具や自然物の準備をし、子どもたちが主体的に自らやってみたい意欲を引き出せる環境作りを心がけた。教職員の得意分野を活かし保育に取り入れることが出来た。

今後も子供たちが「こんな事をやってみたい！」という声を大切に主体的にあそび、学べる環境を整えたい。

畑活動は、専門的な知識を持つ畑の先生の指導を頂き、種植え、苗植えからはじまり収穫まで充実した活動ができた。畑に足を運ぶ子どもがとても多く、収穫した野菜を直ぐに食べられるような環境も職員で作れたことは、食育にもつながり、我が園ならではの充実した活動となった。

園外保育では、年少は、滝野霊園（頭大仏見学）年中は昆虫博物館、年長は、郵便局へのお仕事見学などに出かけた。郵便局へのお仕事見学は具体的なイメージをつくることができ、年長を中心に園での「郵便やさんごっこ」が展開している。

- ・地域に目を向けることが少ないのでお散歩マップをもっと利用し指導計画に取り入れたい。
- ・年長、歩くスキーコースは変わったが自分のペースで楽しめ、達成した喜びを子どもたちは感じる事ができた。
- ・認定こども園新築工事のため来年度は安全な遊び場の確保、園外保育に沢山出かけた。

教育課程・指導について

- ・自園の教育目標や教育課程を常に話しあいに取り入れ、見直しや編成に取り組むことができなかった。年度途中で園長交代もあり、園の方針、園長の考え方をしっかりと教職員に伝えることが出来なかった。今後は教職員との話しあいの時間の中で、お互いの理解を深め共通した意識を持ちたい。また園長、教頭、主任は、しっかりと保育の現場に携わり、保育のあり方や理想の環境作りを話し合いそれぞれの職員の課題に向けて指導していくことを大切にしていきたい。
- ・学年会議、職員会議などで「報告、連絡、相談」を基本に話し合い共有することが大切としたが、園の職員全体にもしっかりと伝え共有する必要があると考えている。
- ・仕事の手順、行事の流れは必要に応じて指導できた。
- ・保育室の清掃、整理整頓の点検、指導をおこなう必要がある。

地域の幼児教育センターとしての役割・子育ての支援について

- ・未就園教室、「プチどんぐりクラブ」「どんぐりクラブ」は例年同様、定員を上回り、充実した内容の中で行うことができた。今年度から「こどものとも社の月刊絵本」を毎月1冊配本をしたことにより、家庭でも親子で絵本の時間を大切に楽しんでもらっている。
- ・2回行った園庭開放では新しい親子にも来て頂き在園児との交流ができた。9月の入園説明会では、未就園以外の親子にも沢山来園して頂き、自然溢れる環境を親子で楽しんでもらった。
- ・昨年に続き、年中の活動として地域の老人施設の訪問（デイサービスふれあい）が実現した核家族化の現代、お年寄りとのふれあいを通して優しさやいたわりの気持ちが育むきっかけとなりお年寄りの笑顔も沢山見られた。
- ・就労する保護者が増えたため、「なかよしクラブ」を利用される方が多くなった。
- ・3学期より正確な時刻を管理できるシステムとして手書きでの「降園打刻」をアイパッドで行う事にした。
- ・教育課程に関わる教育時間終了後の預かり保育も、子どもたちの生活リズム（戸外あそび→おやつ→室内あそび）遊びが充実できるように担任副担任が交代が保育に関わった。なかよしクラブ日誌を担当が毎日記し毎日の日誌のなかで読み上げ、職員で子どもたちの様子を共有することができた。
- ・幼小交流は小学校への期待や円滑な引継ぎの活動としてとても大切な活動である。1回目の活動は常盤小学校へ行き、学習発表会の総練習の観覧に参加させてもらった。2回目の五年生との交流は感染症の影響により中止となり残念だった。

保健管理について

- ・ 幼児に対する日常の健康観察、感染症対策（手洗い・うがいの励行、保育室温度湿度管理の徹底に努めた。職員一人ひとりの意識は高く処置対応も良くできている。
- ・ 感染症拡大を防ぐため連絡アプリを利用し毎日の感染症状況をグラフで見る事が出来るようにした。

安全管理について

- ・ 毎朝、園バスの安全点検を実施。安全な乗り降り出来るバス停の設定をしているが、通行の妨げになっている箇所がわかり、見直しをした。今後も安全な乗り降り、走行が出来るように確認することが必要。
- ・ 戸外による安全管理は朝の設定時に職員で確認、点検を徹底した。
- ・ 外部侵入者対策として朝のなかよし利用時から施錠の徹底を行うことにした。今後も施錠の徹底をしっかりと行いたい。
- ・ 駐車場への飛び出しを回避するため迎えにきた保護者の方には、玄関フード近くで待ってもらうように声かけをした。
- ・ 確実に保護者が来ていることを確認し安全に保護者ことを心がけた。
- ・ 避難訓練は、火災・地震を想定した流れを確認し行った。子どもたち職員も緊張の中行うことができた。色々なことを想定しての避難訓練はとても大切。職員間でいつも危機感を持ち落ち着いて行動できるようにしたい。今後は突発的な訓練を行い指示・連絡・誘導をしっかりと確認したい。
- ・ 令和3年度、認定こども園新園舎建築に伴い、園舎まわりの安全管理を保護者の方の協力のもと、徹底する必要がある。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
① 教育の質の向上 保育環境の研究	<ul style="list-style-type: none">・ 本園の教育目標・教育要領を職員間で、共通理解の中、子どもたちが主体的に活動し遊びがより充実するように、保育環境や援助の在り方を話し合い、研究する。・ 日々の保育の記録から園児の育ちを職員一人ひとりが視点をもってより一層、幼児理解につながるよう努力する。・ 園または、教職員に対して必要な研修内容を検討し、計画的に園内外の研修に取り組むことで更なる教職員の資質向上に努める。
② 安全管理	教職員の安全確保に関する共通理解を図る。 保育中、登降園における安全確保の体制 園外保育、行事における具体的な安全管理の取り組み 安全に配慮した園庭、園舎の体制 災害時や不審者の立ち入りなど緊急時の体制

③ 異年齢交流の充実

異年齢の子どもとの関わりを通して、年下の子どもたちへの思いやりや年上の子どもたちへの憧れなどを育む異年齢交流の充実を目指す。今年度の反省や課題を次年度の活動の中で活かし、異年齢の活動ならではの育ちあう姿を沢山みられるように活動内容の工夫や研究をしていく。

6. 学校関係者評価委員の評価

- ・ 職員の課題意識や向上心が素晴らしい。
- ・ 野外での自然体験活動についても充実しており、子供たちの成長に大きく良い影響を与えている。特に畑の活動については、自分の手で植えて、育ててお世話をして食べるという子どもにとって「楽しくおいしい」という貴重な体験が自然に出来ている。
- ・ 教師の提案や関わりの中で昆虫の飼育、繁殖など「教職員の得意分野を活かした保育はとても良く、子どもたちにとって心に残る経験だった。
- ・ 子供たちの声を大切に主体的なあそびという面もよく感じられた。
- ・ 子どもたちが自由に楽しく遊んでいる姿が印象的だったが、自由に遊ばせるということは、それだけ大人（先生方）の目が必要になるかと思う。先生たちがしっかりとプロ意識を持って一人ひとりの子どもたちを見ているからこそ可能な状況であると思ひ、関心するばかり。
- ・ 先生方みんな一生懸命子どもと保育と向き合っていて感謝している。「一人ひとりの子どもに対する理解と配慮」もよく感じる。
- ・ 先生たちが保育に一生懸命なのが伝わってくる。どの先生が担任になっても安心して子どもを預けられる。信頼できる。
- ・ 専門的な講師を迎えての園内研修だけではなく、園内の先生同士で保育を見合い意見交換などの研修も得るものがあると思う。
- ・ 教育目標が抽象的な言葉なので分かりにくい。例えば「豊かな自然体験で素直に感じる心」とはどのようなことか具体例があると分かりやすい。
- ・ 担任・副担任の二人体制だから、子どもたちみんなの声に答えることが出来ている。
- ・ 異年齢交流は、お世話することが好きな子や新しい環境にすぐ慣れる子にとっては良いが特に年中、年長児は「思いやり」の気持ちや表現が生まれる前ににこにこデーに関して「安心できる・楽しい・自信を持つ」という土台が必要と感じる。
- ・ 報告書を読み、一人ひとりの先生たちの顔が浮かびこの幼稚園に入園させて良かったと心から思う。幼稚園としてもいつも保護者の意見を取り入れてくれて良い園づくりに繋がっていると感じる。
- ・ 異年齢交流における年中児の立ち位置が微妙なので年長になったら、自信を持って取り組めるかもしれない。
- ・ バスキャッチのアプリでの出欠連絡やお便り・お知らせの確認はとても便利。預かりのアイパッドによる降園打刻もとても良い。感染症報告も幼稚園状況がわかり子どもの健康管理にも役立つ良かった。
- ・ お迎え時の対応を改善してもらい良かった。保護者も安全のために行動して行きたい。
- ・ 熊が出現したとき、園庭から室内への逃げ方、また、熊を見かけたり出会ったらどうするかの講話や「熊出現避難訓練」があると安心。
- ・ 札幌市内でも数園あるかないか、自然を生かした保育が出来る環境。先生たちが今後子どもたちにどんな関わりをしていくか楽しみにしている。